時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

第三千五百七十七號　日曜日
明治廿六年二月十二日
舊曆壬辰十二月廿六日(庚、辰)
日出午前六時三十三分　日入午後五時十九分
月出午前三時二十分　月入午後零時四十分
滿潮午前零時四十五分　午後一時二十七分
(西曆一千八百九十三年)

時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜休刊
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料(前金)

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるもの尠からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

政治家の町人根性

我國古來の習慣として政府の大權は武家の手に握りて百姓町人の容喙を許さゞると同時に商賣工業の事をば各々その專門の實業者に一任して武家の知らざる所と爲り政治家と實業者との間を區別して互に相侵さゞりし其習慣は遂に世人をして双方互に無緣のものなりと認め政治家は必ずしも商賣工業に關するの知識を具ふるに及ばずとの考を生ぜしめ甚だしきは實業經濟の道には何等の知識經驗もなく僅に加減乘除の十露盤さへ覺束なき空學者にして天下國家の大計を談じ數理外の理を論じて得々たる者少なからざるに至れり彼の儒者の政治論の如きは即ち此類に屬するものにして其迂僻の爲めに實業の發達を妨げたるは蓋し僅小ならざる可し然るに近來外交開けて西洋文明の思想次第に流行するに從ひ漢儒者流の聲は漸く勢を失ふて早晩其跡を絶つ可きは自然の數なるに今尙は武家政治の舊思想を脫却するを能はずして政治家に殖產經濟の知識は無用なりと口に公言せざるも心に之を信ずる者の少なからざるこそ遺憾なれ例へば帝國議會府縣會等の議員などは何れも當世の政治家なりと自から信じ又世間一般に許す所の人物なれども其言語擧動を以て察するに法律上の權限論は至極穎敏にして論理も精密なるが如くなれども商賣工業の談に至りては之を重んずるの念に乏しく時として議論に日を暮らして實を忘るゝの觀なきに非ず例へば今期の國會に於ても議論至極騷々しくして官民の言ふ所双方共に道理あるが如くなれども其道理論の最中に航海の事も鐵道の事も又は取引所の法案も遂に半空に懸りて決することなく實業社會は徒に日月を消磨して利を失ふのみ苟も朝野の政客をして町人の根性を抱かしめなば斯る迂濶の談はなかる可き筈なるに書流の君子は錢に淡泊にして淸貧に安んじ遂に國家の淸貧を憂へざるに至るとは唯驚入るのみ抑も政府の一擧一動は其關係する所甚だ容易ならず殊に我國の如く政權の非常に强大なる割合に諸般の實業尙は幼稚なる國柄に在ては政略の如何に由りて國民の利害に影響する所も亦いよ〳〵大なるを知る可し我輩は利を興すの政略を求めず唯これを妨げざれば以て滿足する者なり封建尙武の時代に政治の眼目は武家の利害禍福を第一位に置き町人百姓の如きは恰も武家を養ふの器械として視るのみ素より之に依賴するの要用とてはなかりしが故に經濟の思想に乏しき武家の一類が自家の利害の爲めに政を談論し又親から政局に當りて實際に左したる不都合をも感ぜざりしなれ共時勢の變遷、今日は則ち然るを得ず立國施政の基礎は武に在らずして錢に在り世界萬國と對峙して國の權力榮譽を維持せんことを思ひ種々樣々に工風を運らして其最終に至れば何は扨置き唯錢の必要を感ずるのみ即ち實業社會の便益を謀り商賣工業を盛にして國富を增加するは世界に對する國の價値を高くするの手段にして政府の須臾も忘る可らざる所なるに尙は武家政治の昔に戀々して政治家に町人根性は無用など稱し國家の實利を等閑に附して政務を料理せんとするは淸貧の淸雅に耽りて家人の爲めに衣食の計を忘るゝに異ならず啻に迂濶のみならず實際に危險なりと云ふ可し左れば今の世に政客を以て自から任ずる人々は目下の政論に熱して所謂政技者の名を成すよりも更に眼を轉じて國家經濟の方向に眼界を廣くし人民の實利實益を重んじて眞の經世家と爲り最上等の町人根性を養はんことを我輩の敢て勸告する所なり

雜報

〇佛蘭西の新年(一昨日の續き)　右に陳べたる巴奈馬破廉恥事件に就き下院が權柄を振ふて國家を擾亂するよりも尙ほ一層恐る可きは無政黨員が新製の武器を用ひて傍若無人の擧動あることと是れなり其武器とは何ぞや爆裂藥なり彼等が此武器に由て滿天下の人心を恐怖せしむるに足ると知りてよりの勢はます〳〵猖獗にして如何なる手段を以てするも到底これを穩和にす可らざるは猶ほ猛獸の如し彼等が中心の綱領とする所は苟も財產を持てる者は一切これが首を捻る可しと云ふに在りて實に社會の間の交情を破り去らんとするものなり純粹の社會黨が主義とする所は斯まで烈しからずと雖も彼等も亦實際の運動に至ては無政黨を去ること遠からずモンリユーソン及びルーベーズの如き小市府に於ては彼等は先づ府知事を撰出して府政を掌握し扨第一着の手段は警察の役人を任免して之が組織を紊亂し不穩の群民に對して人身並に財產の保護を無力たらしめたり彼等が頭數の多きと暴行の無遠慮なるとは終に佛蘭西人民及び其他何處の人民にも每二十年に一度は革命又は革命の企をして若手の暴人を一掃することこそ佛蘭西の爲めに必要なりと論定せしむるに至れり第一帝國の間に陸軍省が殘酷なる要求の殘酷に斷行せられしことあるが終に巴里府內に在りし暴徒は悉皆鐵砲の筒先に斃れたり千八百四十九年には共和政體、千八百五十一年には帝國を顚覆せんとせし者の殺されたる者多く又千八百七十年には暴徒が計策の半ば成功したるを以て終に是れまでになき多數の殺されたり近くば千八百九十年より又もや暴徒の一群發生し居ることなるが若しも今爰に佛蘭西國君のありたらんには彼は再び兵士を町中に走らして之を威縮するの策に出でたることならん如何となれば恐らくは露士亞の君主を除くの外、近世の君主の爲し能はざる一事と云ふは己れの輦下を恰も敵陣の如くして之が町々を砲擊することと是れなればなり若しも爰にボナパート帝統の者又はオルリアンス王統の者が王位に在らん乎兵士に命じて最後の手段に及び斯の民を銃殺せしむるまでには幾度か思返すことにして暴徒は必ず之を勘定に入るゝことならん然るに共和政府は左る優しき心遣ひをするに及ばず顧て我家系統の謬る可きもなければ一旦、巴里軍營の長たる將軍ソーツシエーが兵力を以て之を鎭壓せんと試みたらんには能く千八百七十一年に將軍ガツイエーが誤たず之を破碎したる手並を以て目的を達す可し又みの非運を逃れたる無政黨の果報者共は彼等が昔の同類の如く兵營の塀を背中に鐵砲の筒先に立ちて目出度からぬ死を遂げ先づ又二十年間は無事泰平なる可し然るに今日の暴徒はよく之を知りて容易に軍人をして己達を襲はしむるの愚を働かず是を以て政府は益々、困難を感ずるのみ畢竟隱れたりとは雖も暴行の心は更に薄らがず千八百七十年とは事變りて今は乃ち彼の眞實恐しくして價の安き武器たる爆裂藥を所有し居る無政黨を相手に工夫を廻らす政府の魂膽は實に容易ならず處置方法の斷乎とせずして効力なきも無理ならざるなり無政黨は蓋し昔よりの宿弊なる可しと雖も古は能く簡便にして無法なる手段に訴へて之を退治し得たるに引換へ今の政府は之を爲す能はず我々は乃ち學校と慈善とを以て彼等と戰ひ居るなり然るに此二者の中、何れも未だ適當なる療法を含有せざるが如く學校は無政黨員にカール　マルクス(獨逸の社會黨學者)の書を讀みて樂に世を暮らす人は悉皆、强盜なりとの說を學ぶことを敎へ又慈善の多くは唯是れ人を見くびツたる燒石に水ほどの慈善たるに過ぎず兩ながら共に頼むに足らざるなりと云々　(終り)

〇軍醫長會議の結了　過日より陸軍省醫務局にて開會中なりし軍醫長會議は一昨日結了せり同會議にて決議せし件々は徵兵演習病院經理に關し昨年執行せし成績により改正を要する箇所を修正したる由なり

〇寶物の再調査　臨時全國寶物取調局にては豫て京都を始め各地方の寶物取調に着手し其取調べを終りたる分には夫々鑑查狀を交附する事と爲り已に鑑查狀を受けたる者も少からざる由なるが其寶物中木像の如きは鑑查頗る困難なりしより隨て鑑查狀の交附に就ても其標準に關して種々の議論を生ずるに至りしかば是等の寶物は更に一定の標準を立て再調查を遂げたる上其交附の當否を決定する見込にて京都其他へ再び同局員を派遣する筈なりと云ふ

〇橫濱水道の擴張に就て　橫濱の水道が市の共有基本財產となりし以來水道擴張論は理事者の計畫しつゝある處にして最初水道を布設する時の豫算は
人口今日の如く多か
增加して現に昨廿五
口十五萬となり前年
りたれば之に伴ひ水
足を感ずるより已に
決を經て內務大藏兩
還方法の改正を請願
の擴張をなし市民に
萬圓程の資金を出し
は豫て水道管理長原
府に對し返還すべき
令一ヶ年凡そ八萬圓
し之を資金に充て更
需用に不足なからし
提出せんとせしに政
にて限りなきを以て
一時姑息の擴張を計
水の不足を生ずる恐
の擴張を計るにあら
とて內議之を許すべ
萬圓の大資金を支出
は或は市債を起し此
りて目下協議中なれ
に滿足を與ふるの期

〇水產物輸出景況
諸國へ輸出せし水產
百四十一圓にして之
十二萬九千九百四十
ど八倍餘の增加なり
增減を比較すれば昆
等は增額せしも其他
きは實に二十三萬餘
魚油、食鹽は數萬圓
加を見ざるも目下試
給其宜きを得ば我水
待つべきなり昨年中
輸出總價額は金九千
昨年に比すれば千百
其輸入額に超過する
入圓なり而して其輸
布類、製茶、石炭及燐寸
割九分、製茶は六分六
て之を製茶の割合に比

〇兵庫丸のマニラ
後丸をマニラ航海船に
は兵庫丸を以て之に代
六日に神戸より出帆す
航海するは全く此度か

〇府知事訴へらる
同會議長楠本正隆氏は
とし一昨日午後一時
付府知事の裁決不當の

〇新刊雜誌
●國華四十號　みの
り橫書は例に因りて
畫各々獨得の手法を
し諸家その養ふ所を